

とりたて詞ダッテの機能と用法分類

1. はじめに

次の文は、とりたて詞ダッテを用いた文である。

- (1) a. 僕だってできるものならそうしたいよ。

[作例]

- b. 大雨だって必ず行きます。

[中西 2014: 230, (19)]

- c. こんなに素晴らしい本だって、当時は全然読まれなかったんだね。

[丹羽 1995: 483, ㊸a]

このとりたて詞ダッテは、他のとりたて詞と交替できる場合とできない場合がある。

- (2) a. 僕{だって/\*でも/ も/\*さえ} できるものならそうしたいよ。  
 b. 大雨{だって/ でも/\*も/\*さえ} 必ず行きます。  
 c. こんなに素晴らしい本{だって/ でも/ も/ さえ} 当時は全然読まれなかったんだね。

本卒論ではダッテの機能に着目し、どのような状況で各機能を持つのかという用法分類を行う。

2. 提案する分類案とフローチャート

今回提案する分類は以下の (3) である。

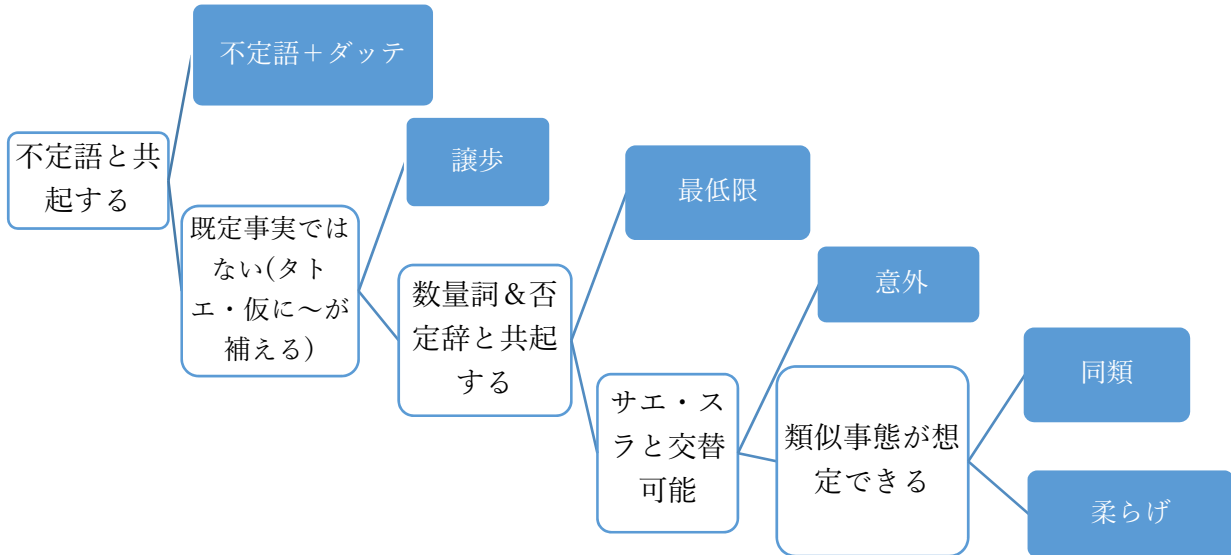
(3)

不定語+ダッテ	とりたてる対象が不定語であるもの。	そんなことは誰 <u>だっ</u> て知っている。
譲歩	推論が当然であるような事態や物量を例示し、逆接を作る。	大雨 <u>だっ</u> て必ず行きます。
最低限	数量詞+否定辞と共起するもの。数量が極端に少ないことを示す。	駅までは5分 <u>だっ</u> てかからなかった。
意外	実際に起こった事態の意外性を強調する。	この辛さにはインド人 <u>だっ</u> てびっくりした。
同類	とりたてる対象が類似事態と同様の性質を持つことを示す。	太郎は元気だ。次郎 <u>だっ</u> て元気だ。
柔らげ	事態や事物を例示する。類似事態が存在しない。	受験 <u>だっ</u> て済んだし、そろそろゆっくりしたらどうだ。

なお (3) における「類似事態」とは、定延 (1995) のモについての言及を踏襲している。定延 (1995) はその用法の一つとして、表現される事態 (言表事態) と類似する事態 (類似事態) を話し手が先行文脈領域に見出すことができる時に用いられる「基本的なモ」を設定した。

ここで、実際にダッテを以上のように分類するために、(4) のフローチャートを提案する。

(4)



テストの流れをこのようにしたのは、(5) (6) のような複数の分類基準にあてはまりうる文や (7) のように互換性が曖昧な文を正しく分類するためである。

(5) a. (たとえ) 10 人 {だって/\*さえ} 敵わないだろう。(譲歩)

[作例]

b. 歌手でもタレントでも、(たとえ)女優 {だって/さえ} 圧倒できる自信がある。(譲歩)

[作例]

(6) この絵には両親だって専門家だってびっくりした。(意外)

[作例]

(7) お客は 10 人 {だって/?さえ} 来なかった。(最低限)

[cf. 沼田 1986: 166, (57)]

### 3. 分類案とフローチャートの特徴

以上の分類案とフローチャートの特徴は主に 2 つあり、1 つは不定語と共起するダッテ、数量詞と否定辞と共起するダッテを 1 つの用法として分けていることである。

(8) a. 何 {だって/でも/?も} できる。

[丹羽 1995: 491, ⑦a]

b. 何 {?だって/?でも/も} できない。

(9) そんなことはどこだって許してくれない。

[作例]

不定語と共起するダッテについては、丹羽 (1995) が (8) のように否定になじまないと述べているが、他の研究でも 1 つの用法としては扱われていない。しかし、不定語が共起することで (8) (9) のように (3) の他のダッテの用法では捉えられない文が出てくる。本卒論では、不定語の種類や否定辞の共起、文脈の違いなどダッテの機能とは別の要因でブレが生じるものであると考え、不定語と共起するものを 1 つの用法として分類しておくことで、それらの共起による内省のブレを防いでいる。

また数量詞、否定辞と共起するダッテについても先行研究では同じく 1 つの用法としての分類基準は言及されていないが、タトエが補えるかどうかやサエとの交替の容認性が曖昧なことから、他のダッテの用法では捉えられないことがある。これを分けておくことで、より正確な分類を行うことができる。

特徴のもう 1 つは、先行研究で頻繁に言及されるモ・デモとの互換性という基準を直接用いていないことである。(10) は蓮沼 (1997) によるダッテとモ、デモそれぞれの用法の共通性を示した表である。

(10) 取り立て詞「も」「でも」「だって」の用法

	同類	譲歩	逆接	例示	意外	当然
も	○	×	×	(×)	○	○
でも	×	○	○	○	○	×
だって	○	○	×	×	○	○

[蓮沼 1997: 206, 表 3]

(11) a. 同級生が来た。先輩 (も/\*でも/だって) 来た。

[蓮沼 1997: 206, (22a)]

b. あんな事言われれば腹 (も/\*でも/だって) 立つよ。

[蓮沼 1997: 206, (22f)]

(10) ではダッテとモ、デモの各用法における交替の可否が示されているが、同類と当然の項目で交替の可否が同じであり、(11) の文はモ・デモとの交替では区別できない。この部分を、(3) の分類では類似事態が存在するかどうかという基準で分けることが可能である。

#### 4. おわりに

本卒論では現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を使用して分類の実践を行った。「だって」という文字列の検索結果から文頭に出現するダッテや断定を表す助動詞ダ+引用・伝聞を表す

助詞ッテを除外してとりたて詞として使用されている例文を 100 件抜き出し、フローチャートに従って分類した。その結果、(12) のような内訳となった。

(12)

不定語+ダッテ	譲歩	最低限	意外	同類	柔らげ
21 例	16 例	3 例	12 例	41 例	7 例

この分類とフローチャートは他のとりたて詞にも適用することができ、それらのとりたて詞がどのような用法を共有しているのかが明確になる。また分類の実践では複数の分類基準に沿うと考えられる例文がいくつか存在した。それらの用法の違いは話し手の認識や文脈によるものが大きかったため、違いが生じる例文をより多く集め、話し手の認識と文脈により着目した分類基準を模索していくことが今後の課題である。

## 参考文献

- 奥津敬一郎・杉本武・沼田善子 (1986) 『いわゆる日本語助詞の研究』 東京: 凡人社.
- 河西良治 (2000) 「\*少ししか食べるわけではない—記述否定とメタ言語的否定」 『言語』 29(11): 59-64.
- 定延利之 (1995) 「心的プロセスから見た取り立て詞モ・デモ」 沼田善子・野田尚史・益岡隆志 (編) 『日本語の主題と取り立て』 227-260. 東京: くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 東京: くろしお出版.
- 中西久美子 (2014) 「とりたて詞「でも」と言い換えられない「だって」」 『京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢』 82: 227-239.
- 丹羽哲也 (1995) 「「さえ」「でも」「だって」について」 『大阪市立大学文学部紀要』 47: 473-499.
- 蓮沼昭子 (1997) 「「だって」と「でも」—取り立てと接続の相関—」 『姫路獨協大学外国語学部紀要』 11: 197-217.